

興願寺



普門院摩尼山興願寺。天正13年、兵火により焼失し、それ以前の縁起は不詳。本尊は延命地藏菩薩。

承応2年（1653年）高知から当地に巡錫の快順上人が堂内に祀られていた延命地藏菩薩の靈感を受け当山の中興となった。当初は萩原寺の末寺であったが、元禄5年（1692年）嵯峨御所大覚寺の宮より山号、院号を許され、万延元年（1860年）、嵯峨王府の直末に別せられ菊御紋を下賜される。

興願寺三重塔は、県の有形文化財に、仁王門と大師堂は市の有形文化財に指定されている。

興願寺三重塔

興願寺の境内ではなく道を挟んで三島幼稚園の園内に立つ。もともとこの三重塔は、貞享元年（1684年）に徳島県阿南市の四国霊場第21番札所太龍寺に建立されたものであるが、老朽化のため、昭和34年（1959年）に太龍寺から移築された。移築の際、傷みの激しかった部分はとりかえられているが、建立当時の姿がほぼ再現されている。



興願寺仁王門

江戸時代後期、享和元年（1801年）の建立。桁行三間、梁間二間の二層の楼門。市の有形文化財に指定されている。



興願寺大師堂（旧地蔵堂）

享保10年（1725年）か寛延2年（1749年）に建立された江戸時代中期の建物。和様を基調としながら唐様のデザインを取り入れている。当時の通常の仏堂と比べると格式の高い華やかな仏堂である。